

連合兵庫2023新年旗開き：挨拶

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、決意も新たに、新年をお迎えになられたことと存じます。

連合兵庫の旗開きは3年ぶりの開催になります。今回は、コロナ感染防止という点での制約から、少しご不便をおかけしますがご容赦ください。

本日は、公務ご多忙のなか、ご来賓として、片山兵庫県副知事、久元神戸市長、鈴木兵庫労働局長、井坂立憲民主党県連代表、向山国民民主党県連代表、三原兵庫県経営者協会会長、坂本部落解放同盟兵庫県連合会委員長、清宮近畿労働金庫兵庫地区本部本部長、住山こくみん共済coop関西統括本部兵庫推進本部本部長、長尾ひょうご憩いの宿理事、松浦兵庫退職者連合・会長に、ご臨席を賜りました。

主催者を代表し、厚く御礼を申し上げます。誠に有難うございます。

さて、昨年を表す漢字一文字の1位は、「戦（いくさ）」でした。昨年は、ロシアのウクライナ侵攻・北朝鮮による相次ぐミサイル発射など戦争の恐ろしさ・悲惨さを思い知らされ、また身近な生活でも物価高や感染症などとの戦いでした。一方、サッカーワールドカップでの日本チームの活躍、北京冬季オリンピックでの歴代最多メダル獲得、流行語大賞となった村上様の日本人最多本塁打達成など、元気を貰った「戦」もありました。

今年は、ぜひ「安心社会、将来に希望の持てる社会」にまつわる漢字が選ばれる年にしたいものです。

そのために、私ども連合は、この2023年においてもある意味「戦」とも言える様々な課題に挑まなくてはなりません。

年初にあたり、そのなかでも特筆すべき4点の課題について、皆さんと思いを一つにしたいと思います。

1点目は、連合緊急アクションによる生活困窮者支援と2023春季生活闘争についてです。

労働環境は、この20数年間で、不安定な雇用形態で働く人の割合が大きく増加し、賃金水準も97年をピークに戻っておらず、先進国の中で最

下位を争っている現状です。また、貧困の固定化、格差の拡大といった「分配のゆがみ」も顕在化しています。

そのうえコロナ禍で、中小企業労働者や不安定な雇用形態で働く方、フリーランスの方など、より弱い立場の人ほど経済ショックの影響を大きく受け「分配のゆがみ」を一層深刻化させました。

また、物価の急上昇もあって、実質賃金はマイナスで推移しており、賃金が物価に追いつかない状況が長く続けば、個人消費が落ち込み、世界経済の減速とあいまって深刻な不況を招くことも懸念されます。

とりわけ、「不安定な雇用形態で働く仲間、一人親世帯など」の多くは、「低賃金」「コロナ影響」「物価の急上昇」による3重苦の状態です。

東京都では、住民税非課税の170万世帯に、25kgのお米を現物支給するとの報道がありました。先進国の首都で、主食を現物支給しなければならない現実があるということを重く受け止めなければなりません。

このような状況に鑑み、連合は、賃上げの社会的波及、格差是正、生活困窮者支援は喫緊の課題だと位置づけ、「賃上げ実現・暮らし支援 明日を変える連合緊急アクション」と銘打ち、春季生活闘争も含め様々な取り組みを全国的に展開して参ります。

連合兵庫も、すでに昨年末、兵庫県に対し「生活困窮者支援に関する緊急要請」を実施してきました。また、今月22日～25日の4日間、ラッピングカーによる全国キャラバンを兵庫で受け入れ、賃上げ実現・暮らし支援の世論喚起にむけた、県下各地での宣伝活動を予定しています。

また、2023春季生活闘争を、サプライチェーン全体で生み出した付加価値の適正分配、価格転嫁の徹底などによってデフレマインドを払拭し、「経済の自律的成長と分配の好循環」をつくりだすターニングポイントとしなければなりません。

私たちは、明日を変えていくために、「連合アクション、そして未来づくり春闘」に総力で取り組むことをこの場で共有しておきたいと思えます。

つぎに、「集团的労使関係の追求」についてです。

労働者は、「誰もが、将来を描ける環境で安心して働きたい」と望んでいます。そしてその実現には、労使対等の立場である「集团的労使関係」を構築し、働く人たちの意見や要望を職場に反映させていくことが必要で

す。言い方を換えれば、集团的労使関係構築は、働く人たちにとって、雇用や生活を守るための、一番身近で且つ重要なセーフティーネットでもある訳です。

先月 16 日に、「2022 年労働組合基礎調査」の結果が公表されました。雇用者数は、全国で 6,048 万人、そのうち労働組合員数 999.2 万人で、推定組織率は 16.5%です。対前年で、雇用者数は 68 万人増、組合員は 8.6 万人減、推定組織率は 0.4%低下という状況になりました。

それにしても、従前から推定組織率の低さが指摘されるなかで、さらに低下し、集团的労使関係に守られない労働者の割合が増加していることに、強い危機感を持たねばなりません。

一方、連合の組合員は 695.2 万人、前年比 3.9 万人減という結果でした。

私たちは、「組織拡大プラン 2030」を進めるなかであって、組合員数が減少したことを、連合全体として真摯に受け止めなければなりません。

連合兵庫としても、「結集する全ての構成組合」が、自らの具体的な拡大目標を掲げ、あらゆる機会を通じ、その達成に徹底的にこだわる取り組みを実践することが重要です。そのことが、集团的労使関係の輪を拡げ、未組織労働者にとってのセーフティーネット機能の確保につながっていきます。この点、強調しておきたいと思います。

いまの「28 万連合兵庫」を、構成組織の総力で、2030 年を目途に「35 万連合兵庫」へと拡大して参りたいと存じます。

3 点目は、さらなる「ジェンダー平等の推進」についてです。

連合兵庫は、本部方針のもと、「労働運動における男女平等と職場・社会におけるジェンダー平等の推進」をスローガンに、来年 12 月までを期間とする「ジェンダー平等推進計画フェーズ 1」に取り組んでいます。

昨年、連合近畿 B L を対象にジェンダー平等認知度調査を行いました。

組合員対象の調査結果は、ジェンダー平等推進計画の認知度 17.7%、そのうち組合役員だけを見ても 41.5%と半数に届かない実態でした。

また、多様性のある運動を推進するために必要な言葉の認知度は、ジェンダー・バイアスが 29.6%、アンコンシャス・バイアスが 15.1%、S O G I が 13.2%という結果で、あらためて、組織内において、取り組みの意義・重要性と併せ、活動の周知の必要性を痛感した次第です。

私、そして構成組織および地協の代表者は、ジェンダー平等推進への「トップリーダー宣言」をしています。この1年特に、活動の定着にむけトップリーダーの皆さんを先頭に、宣言の実践をお願いしておきたいと思ひます。

最後に、「地方自治体選挙」の重要性についてです。

いま、兵庫県も含め多くの地方・地域の実状は、超少子高齢化の進展、自然減・社会減による人口減少、地域ごとの経済規模の格差、地域産業や商店街の衰退、不安定雇用の拡大、病院・学校の統合・減少、交通アクセスの問題などなど、何らかの持続可能性が問われる問題を抱えておりますし、また、コロナ禍で脆弱さを露呈したセーフティーネットの実態や、多発する自然災害の実態から、生活の安心確保などに対して、住民の意識は高まっており、「公共サービスの重要性」が再認識されています。

それだけ、「地方自治体の役割」と「その舵取りを担う地方政治」の重要性は増していますし、働く者・生活者の立場の政治勢力の拡大が求められています。

とりわけ、4月の統一地方選挙では、連合兵庫が推薦・支持する全ての候補者の当選へ、参議院選挙の教訓でもある「相互信頼と力合わせ」の重要性を再認識し、組織力の最大発揮に努めて参ります。

結びとします。

私たちは、「働くことを軸とする安心社会」の実現へ、様々な課題に取り組んでいます。これまでの活動を振り返っても、うまくいくこともあれば、十分な成果を得られないこともあります。

ある方の言葉を借りれば、「大切なのは、素直に失敗を認め、心をひらいて学ぶことだ。それができた時、失敗は貴重な教訓・財産となる。」ということです。

失敗をしても、そのことを貴重な教訓・財産としつつ、連合兵庫が「誰から見ても価値ある存在」となるよう取り組んで参る所存です。

時間の関係で割愛しましたが、後半年度も課題山積です。またこの1年、皆様の変らぬご指導ご支援をいただきながら、全ての構成組織、地域協議会が力を合わせ、課題に挑戦して参ります。

本年が、皆様にとりまして希望に満ちた素晴らしい1年になりますことを、心からご祈念申し上げ、主催者を代表しての挨拶とさせていただきます。
ともに頑張りましょう！ ありがとうございました。

以上